

【SR-9 定性的システマティックレビュー】

CQ	CQ14	皮膚障害悪化の予防としてEVが疑われた時の残留薬液または血液の吸引を推奨するか
P		性別：指定なし、年齢：指定なし、疾患・病態：がん薬物療法を受けている患者、EVが起こった患者、地理的要件：がん薬物療法が行われている医療施設（外来、入院）
I		残留薬液または血液を吸引する
C		残留薬液または血液を吸引しない
臨床的文脈		EVの早期発見のために逆血の確認は有効であるのか、EVによる症状の悪化防止のために留置針から浸出液（薬剤）あるいは血液の吸引は有効であるのかを検討する。

01		皮膚障害（発赤・腫脹）の範囲が減少
非直接性のまとめ		CQ14では残留薬液または血液の吸引についての推奨であるが、残留薬液または血液の吸引のみを取り扱う文献はなく、ステロイドの局注、ステロイドや消炎剤の軟膏の塗布、クーリン
バイアスリスクのまとめ		評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、系統的偏りが大きいと評価した。2症例では介入の記載がなかった。
非一貫性その他のまとめ		評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、治療効果の推定値はそれぞれ異なると評価した。2症例では介入の記載がなかった。
コメント		評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、エビデンスの強さは非常に弱いと評価した。

02	皮膚疼痛の減少
非直接性のまとめ	CQ14では残留薬液または血液の吸引についての推奨であるが、残留薬液または血液の吸引のみを取り扱う文献はなく、ステロイドの局注、ステロイドや消炎剤の軟膏の塗布、クーリング、皮下からの薬液や脂肪の吸引、生理食塩液での洗浄などが
バイアスリスクのまとめ	評価を行った2報の文献はいずれも1症例のcase reportであり、系統的偏りが大きいと評価した。1症例では介入の記載がなかった。
非一貫性その他のまとめ	評価を行った2報の文献はいずれも1症例のcase reportであり、治療効果の推定値はそれぞれ異なると評価した。1症例では介入の記載がなかった。
コメント	評価を行った2報の文献はすべて1症例のcase reportであり、エビデンスの強さは非常に弱いと判断した。 また、異なる文献間のため、疼痛の強さについて比較すること

03	潰瘍形成発生が減少
非直接性のまとめ	CQ14では残留薬液または血液の吸引についての推奨であるが、残留薬液または血液の吸引のみを取り扱う文献はなく、ステロイドの局注、ステロイドや消炎剤の軟膏の塗布、クーリン
バイアスリスクのまとめ	評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、系統的偏りが大きいと評価した。2症例では介入の記載がなかった。
非一貫性その他のまとめ	評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、治療効果の推定値はそれぞれ異なると評価した。2症例では介入の記載がなかった。
コメント	評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、エビデンスの強さは非常に弱いと判断した。

04	症状回復までの期間の短縮
非直接性のまとめ	CQ14では残留薬液または血液の吸引についての推奨であるが、残留薬液または血液の吸引のみを取り扱う文献はなく、ステロイドの局注、ステロイドや消炎剤の軟膏の塗布、クーリン
バイアスリスクのまとめ	評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、系統的偏りが大きいと評価した。2症例では介入の記載がなかった。
非一貫性その他のまとめ	評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、治療効果の推定値はそれぞれ異なると評価した。2症例では介入の記載がなかった。
コメント	評価を行った4報の文献はすべて1症例のcase reportであり、エビデンスの強さは非常に弱いと判断した。

05	処置に伴う血管の損傷
非直接性のまとめ	CQ14では残留薬液または血液の吸引についての推奨であるが、残留薬液または血液の吸引のみを取り扱う文献はなく、ステロイドの局注、ステロイドや消炎剤の軟膏の塗布、クーリン
バイアスリスクのまとめ	本アウトカムに関する記述は認められなかった。
非一貫性その他のまとめ	本アウトカムに関する記述は認められなかった。
コメント	本アウトカムに関する記述は認められなかった。